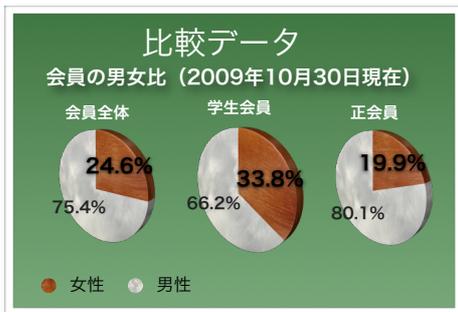


日本分子生物学会年会における発表者の属性統計

～年会における女性のactivity向上を目指して～

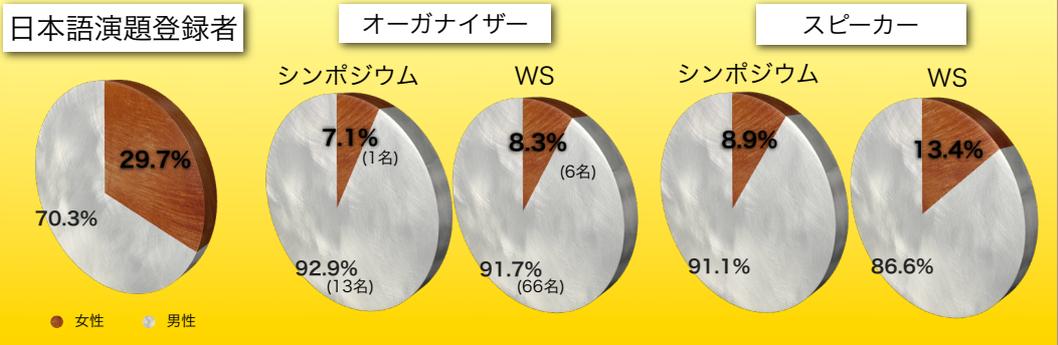
”学会のシンポジウムでの発表者やオーガナイザーの女性の比率は
学会員全体の女性の比率と比べて低いのではないだろうか？”

日本分子生物学会男女共同参画委員会はこのような疑問をもち、2009年度から年会発表者の
演題カテゴリーごとの属性調査を経年的に行うことにしました。



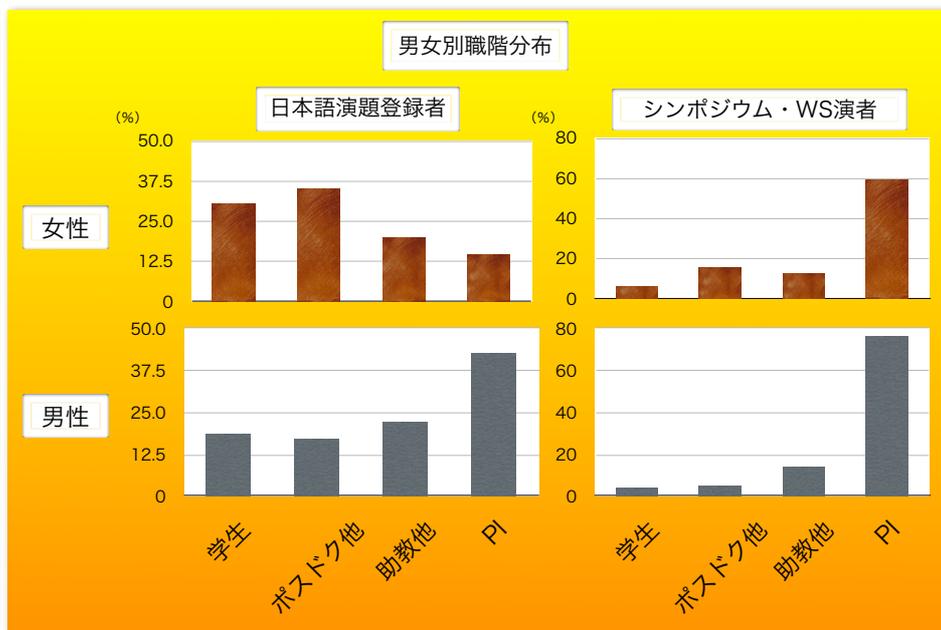
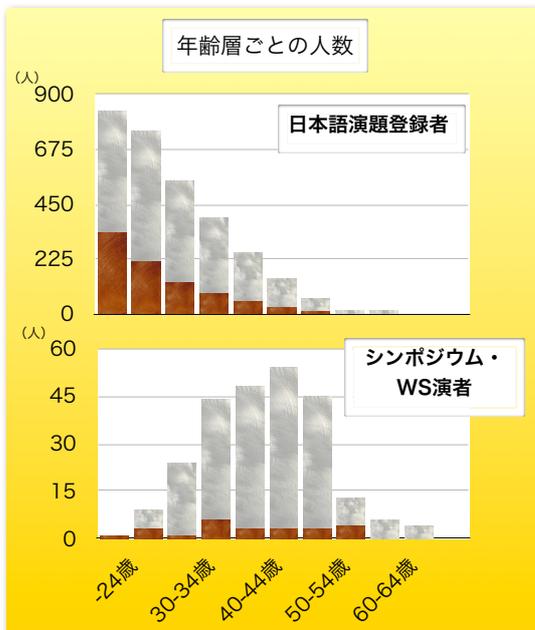
登録者数	回答数 (回答率)	シンポジウム	ワークショップ (WS)
日本語演題登録者数 3552名	オーガナイザー スピーカー	14/34名 (41.18%) 45/112名 (40.18%)	72/114名 (63.16%) 157/246名 (63.82%)

集計結果 1 (男女比)



シンポジウム・WS
演者の女性率は、学会員
全体の女性率に比べて
低い

集計結果 2 (年齢層分布と男女別職階分布)



まとめ

今回の調査結果は当初の疑問を裏付けるものであり、女性の積極的な参画を呼びかけ続ける必要性が示唆された。

女性はより若い世代の活躍が示唆された。今後シンポジウム・WSのオーガナイザー、スピーカーへの、男女を問わず若い世代の応募・登用を呼びかけることが、年会における女性のvisibilityを上げることにもつながるのではないだろうか。

今回の調査ではシンポジウム・WSの演者についての回答率が低かったという問題点がある。その大きな要因として年齢層についての回答を演者から得ることの困難さが多くのオーガナイザーから指摘された。継続的でより意義のある調査結果を得るためには、来年度以降の調査方法について再検討する必要がある。